

事例報告②

地域共同リポジトリ SUCRA ～参加までとこれからと～

埼玉女子短期大学図書館 湊 伸子

1. 埼玉女子短期大学の概要

1989年狭山市に、商学科・英語科の2学科で開学、1999年に日高市に移転した。以前から導入していた、学生が将来就きたい職業と直結した「コース制」を本格的に進め、コースとインターンシップとの連携を強化することで2004年に「現代GP」に採択された短大である。

2. リポジトリ以前

2003年秋にNIIの電子化サービス事業への参加が決定し、著作権の処理が必要になったが、退職教員を含めた

執筆者全員に公開への許諾を得るという方法を取った。電子化されたデータを順次入力し、新規の著者にはその都度許諾を得ながら登録を続けていた。

3. リポジトリ参加の経緯

SALAからリポジトリ参加への誘いがあった当時、図書館長は文部科学省出身で、リポジトリの意義を良く理解しており、コストがかからないこと、「SUCRA」への信頼感、今後の短大運営上も意義がある、など参加に積極的であった。一方、学内の不安感・抵抗感是个々の教員が公表の

是非を判断できることで説得した。

4. SUCRA 登録まで

NIIの「学術雑誌公開支援事業」を利用して、毎年登録を続けていたCi-Nii掲載論文をデータで取得した。実際の登録には埼玉大学図書館の絶大な支援をいただき無

事一括入力を果たすことが出来た。

5. 参加後のようす

論文がダウンロードされていることが実感できるなど、研究成果の可視性の向上は大きなメリットである。今後も紀要以外の研究成果を継続的に掲載していきたい。